

# 「地名の歴史と伝承」 第二話

「牛久」という地名が関東平野の茨城県牛久市・

千葉県市原市と袖ヶ浦市・栃木県栃木市にある――

牛久市文化財保護審議委員 栗原 功

## 千葉県下の市原市と袖ヶ浦市の牛久という地名

### 市原市の牛久

市原市教育委員会発行の市原地方史研究第18号に掲載されている牛久という地名の説明文の主要部分を抜粋して左に引用しておく。

戦国時代（室町時代後半の1467年～1566年までの期間をさす）の文書（天正12年・1584年）に見られる牛久の地は、旧養老川の河岸場と、東京湾・太平洋を結ぶ陸路との交差点にできた宿場町で、江戸時代には「牛久町（寛文2年・1662年）」とも称していた。

「ウシク」の語源であるが、牛久という地名が関東平野に市原市の外に、茨城県牛久市、栃木県下都賀郡大平町牛久（現栃木市）の3カ所（袖ヶ浦市飯富の字に牛久がある）ある。茨城県下の牛久市には牛久沼があるが、中世以前は香取の海と呼ばれた入り海の一部であったという。



牛久ばやし…牛久地区の上宿・中宿・下宿に幕末の文久2年(1862年)以来伝わる江戸系 囃子。八坂神社の祭礼日に演じられる。【写真提供】市原市教育委員会



上総牛久駅(小湊鉄道) 【写真提供】市原市教育委員会

市原市の牛久も、縄文時代前期の海進期には、近くまで海があったであろうことから『潮が来ていた』という意味で「ウシ地名」が使われたと考えられないこともない。

ところで、千葉県市原郡牛久村は大正13年(1924年)に合併によつ

て町村を施行するが、その翌年、小湊鉄道の開通により同地内に駅が設けられ、上総牛久駅と名付けられた。牛久の上に当地の旧国名を表示する上総が付けられたのは、これより前の明治29年(1896年)開通の常磐線が走っている茨城県稲敷郡牛久村地内に牛久駅が設置されており、それと区別するためであった。牛久町は昭和29年に合併によって南総町となり、南総町は昭和42年に市原市と合併した。

の牛久という地名は、飯富の字になつてゐる。提供いただいた同市教育委員会編さん発行の資料を見ると、この場合は、「牛久」を「ウシウ」と読むようだ。あるいはまた寛文元年(1661年)記の古文書には、「牛久(ウシウ)そうきやう」、「牛久(ウシク)やつ」、「牛句(ウシク)そうき」の記載があるという。

### 「常陸太田」という市の名称

――牛久市と姉妹都市――

駅名の上に所在地の旧国名が付けられた例が身近にあった。大正7年(1918年)、土浦―岩瀬間(旧岩瀬町、現桜川市)に軽便鉄道筑波線が開通し、常陸藤沢駅(旧新治村、現土浦市)が設けられた。大字地名の藤沢の上に本県の旧国名を表す常陸が付けられたのは、既に東海道本線に藤沢駅(神奈川県)が設けられていたからだ。外に筑波線の小田、北条、大貫、桃山の各駅名にも大字地名の上に常陸が付けられた。筑波線は、モーターゼーションの進行などにより乗客が減少、さまざまな合理化が行われたが経営は好転せず、昭和62年(1987年)3月31日をもって廃止された。

昭和28年(1953年)に町村合併促進法が施行され、全国的に町村の合併が進み新たな市が多数できた。その際に、既に存在する名称と同一の名称を用いようとする市が数多く自治庁(自治省、現総務省)に申請されたが、混乱を理由に重複が認可されず、多くの自治体が重複を避けた名称に変更する事態となつた。

### 袖ヶ浦市の字地名・牛久

市原市北東地域が接する袖ヶ浦市